

まちだのエコへの取り組み

自然環境の保護を考え、人間の生活との共存を目指す「エコロジー」に関する活動が様々なかたちで行われています。町田市と市民、そして事業者が協働しながら進めている町田のエコ。皆さんも、ぜひ参加してみませんか。



「ごみゼロのまち」 環境先進都市を目指す

町田市では、「ごみゼロのまち」を目指して、市内のイベントをエコにする活動を市民の皆さんや事業者と協働で推進しています。今年の4月に開催された尾根緑道と芹ヶ谷公園の「さくら祭り」では、リユース食器とリサイクル食器を導入して、イベントで排出されるごみを抑制しました。さらに会場内にごみの分別や回収をする拠点を設置し、適正な分別による、ごみの資源化も進めました。大きなお祭りから地域のお祭りなど、様々な規模に応じたごみの適正な分別を行うことで、ごみの減量が期待できます。

ほかにも、生ごみ処理機の家庭への導入は、燃やす生ごみを減量することで、処理コストの圧縮につながります。生ごみ処理機でできる一次生成物は、堆肥として活用できるため、草花の栽培や菜園づくりを通じて、楽しみながらごみが減量できます。町田市では、生ごみ処理機等の購入費補助金制度を設けています。10世帯以上のグループの取り組みに対する新しい制度も設けましたので、詳しくはお問い合わせください。

町田市環境資源部ごみ減量課
TEL 042-797-0530

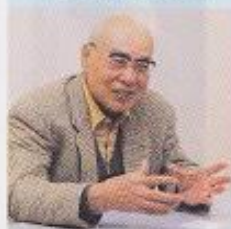
次世代へ「よきふるさと」を残したい

エコネット町田

豊かな川の自然を残したいと考えるエコネット町田は、市民大学 HATS の環境講座を修了した有志が集った団体。1995年の会の発足以来、地域ごとに4つの部会に分かれ、毎月決まった日時に川の清掃活動に取り組んでいる。現在では、周辺地域の学校からの申し入れにより、子どもたちの環境学習を支援する場にもなっている。エコネット町田の活動では、川の清掃活動のあとに必ず、川と親しむ時間を設けている。会長を務める山口祐郎さんは、「子どもを川から遠ざけるのではなく、小さな危険を経験することで、自然とのつきあい方を身につけて欲しい」と話す。山口さんは、次世代へ「よきふるさと」を残すための努力を今後も続けてゆくと思ってくれた。

◆エコネット町田の川の清掃活動

- | | | |
|-------------------|----------|-------------|
| ・原田川・旗下楼周辺(原田川部会) | 毎月第1木曜日 | 10:00～12:00 |
| ・原田川・原馬場辺(原田川部会) | 毎月第1金曜日 | 10:00～12:00 |
| ・境川・JR町田駅裏(境川部会) | 奇数月第2木曜日 | 10:00～12:00 |
| ・真光寺川全線(真光寺川部会) | 毎月第2日曜日 | 9:30～12:00 |
| ・荒ノ沢源流(荒ノ沢部会) | 毎月第4日曜日 | 10:00～12:00 |



エコネット町田 会長
山口祐郎さん



毎年7月下旬に行われる「真光寺川まつり」は、たくさんの子供達の身辺に川と親しむ。

お問い合わせ | エコネット町田
TEL 042-735-0362 (山崎)
E-mail: jgub-gymachida@beach.ocn.ne.jp

活動を通し、生ごみ堆肥化と会員同士の交流を深める

EM 窪平(くぼだいら)



EM 窪平(くぼだいり)
代表者代表 仲村謙郎さん



農薬、化学肥料を使わず、EMボカシ、生ごみ堆肥を使った野菜作りが行われている窪平の農園風景。春、秋には農園でとれた有機野菜で収穫祭が行われている。

お問い合わせ | EM 窪平(くぼだいり)
TEL 042-735-7563 (9時～) E-mail: k-hem@com.home.ne.jp

EM 窪平は、生ごみを堆肥化することを目的とし、平成13年秋の発足から、現在は100家族をこえる仲間が集まり活動を続けている。「家庭から出る燃やせるごみの約4割は、生ごみです。この生ごみを堆肥として、野菜や草花を育てられれば、素晴らしいことだと思いませんか」と語るのは、EM 窪平の世話役代表者仲村謙郎さん。生ごみ処理のEM専用バケツに調製残飯などを入れ、「EMボカシ」と呼ばれる発酵資材をまぜることで、生ごみが発酵する。それを土に戻せば、土の中の微生物が生ごみを分解し、生ごみは養分に優れた肥料になるとのこと。EM 窪平では、理解ある地主の好意により真光寺に900坪の農地と1000坪の竹林を借り受けてフィールドとして活用している。窪平は農園のある場所の古くからの呼び名。仲村さんは、今後も生ごみ堆肥化と会員同士の交流を深め、有機野菜の日給率向上を目指したいと話す。

「さくら祭り」にリユース食器とリサイクル食器を導入

NPO 法人 町田発・ゼロ・ウェイストの会



ゼロ・ウェイストとは、無駄をなくし、資源を大切にしながら環境を良くしようという考え。昨年の9月にNPO法人として出発した「町田発・ゼロ・ウェイストの会」は、町田市でゼロ・ウェイスト運動に取り組んでいる。「今年の『尾根緑道さくら祭り』では、大多数の出店者にリユース食器かリサイクル食器を使っていただきました」と話すのは、同会会員の中川慶子さん。ゼロ・ウェイストの会が、さくら祭りのリユース食器とリサイクル食器の導入を働きかけたことで、今年の導入が実現したのだ。また、昨年からの導入しているごみの分別・回収の拠点のスタッフとして来場者のごみの分別を手伝うことで、効果を実感したとのこと。今年の『尾根緑道さくら祭り』では、およそ半分のごみを資源として回収できたと効果を教えてくれた。



「さくら祭り」の会場で活躍するスタッフ。写真中央が中川慶子さん。

【問い合わせ】 NPO法人 町田発・ゼロ・ウェイストの会
TEL: 042-797-0134（受付） E-mail: npo@tda_zeno.com@tda.or.jp
URL: TOP >>> www.zeroout.jp/members_zeno.html



会場には、ごみの分別・回収拠点が設置され、スタッフが来場者を手伝う。



今年の「さくら祭り」で導入されたリサイクル食器。使用後はフィルムを外して分別。

「ごみの減量」や「環境整備」をテーマにした団体活動を紹介

町田市内には、日ごろの生活において、ごみの減量を目指す活動を促進する団体や河川の清掃活動を通じて、地域の子どもたちの環境学習の場を提供する団体があります。次世代に「ふるさと」を残すための活動は、まさに、まちだの誇り。ではないでしょうか。

町田でエコが促進されています。イベントや活動に参加して、「エコ」を体験してみませんか。

個人のごみ減量活動を広めていきたい

町田ごみフェスタ2009



毎年10月に開催される「町田ごみフェスタ」は、ごみの減量や環境問題を楽しみながら考えるイベント。日ごろからごみの減量やリサイクル活動に取り組んでいる市民や団体が組織された実行委員会が開催している。今年で18回を数える長い歴史のあるイベントに対して、「ごみを減量するには、市民の皆さんの一人ひとりの意識が大切です。この町田ごみフェスタを通じて、個人のごみ減量活動を広げていきたい」と話すのは、2008年実行委員会委員長の田澤成雄さん。当日は、団体バザーの他、長章の修理実演や施設見学なども行われる。実行委員を募集しているので、興味のある方は、ぜひ一緒に活動してみよう。

第18回町田ごみフェスタ2009

日時：10月4日（日）10:00～15:00 会場：町田リサイクル文化センター



町田ごみフェスタ2009の開催風景。バザー出展者も臨時募集中。フリーマーケットやバザーなど大勢の来場者がごみの減量について考えた。

【問い合わせ】 町田環境資源部ごみ減量課
TEL: 042-797-0530

多摩清掃工場リサイクル(エコにこ)センター見学 まちだ市民大学 HATS



町田市民が生涯学び続けるための場を提供している「まちだ市民大学 HATS」では、今年3月、清掃工場を見学するバスツアーを開催した。この無料見学バスツアーでは、約20名の参加者が多摩清掃工場リサイクル（エコにこ）センターを訪れて、リサイクルに関する知識を深めた。参加者からは、「分別や補修により、リサイクルできるものがあると知った」「具体的なリサイクルの仕組みが理解できた」などの声が上がった。まちだ市民大学 HATSでは、こうしたイベントのほか、市民ボランティアの大切さを学ぶ体験講座「まちだ de エコ・ツアー2009」も開催している。その中の公開講座はこれからでも参加できるとのことだ。

「まちだ de エコ・ツアー2009」公開講座の予定

6/14（日）14:00～16:00 保水学ぶ竹切り三昧
（協力：NPO法人 鶴見川源流ネットワーク）
6/28（日）10:00～12:00 きれいな家はおもてなし（協力：エコネット町田）



まじは工場やリサイクルに関する基礎知識を学んだ。



分別や補修によりリサイクルされた展示販売品の説明を受ける参加者。

【問い合わせ】 町田市教育委員会生涯学習課 生涯学習部 市民大学事務局
TEL: 042-797-1195